

キャンパス通信



日本赤十字九州国際看護大学

Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing

2025.4-2025.9

No.29

ipp eki



特集

- 第1回 グローバル・ワークショップを開催しました。
- 本学校舎がきれいになりました。

一 珀石

4

April



入学式

4 / 3



新入生ガイダンス

4 / 4

5

May



第1回グローバル・ワークショップ開催

5 / 29
P4

宗像高校文化祭にブースを出展しました

5 / 31
P6

6

June

2年生科目「疾病と治療Ⅲ」

6 / 9

7

July



1年生科目「赤十字救護・援助法」

7 / 2・7 / 9

タイ赤十字大学からの交換留学生が来ました

7 / 13 ~ 7 / 19



赤十字活動Ⅱ

(スイス・インドネシアからの
研修生と学びました)7 / 14 ~ 7 / 31
P7

第26回日本赤十字看護学会

7 / 19・7 / 20
P5

オープンキャンパス開催

7 / 26



公開講座「笑い与健康」

7 / 28
P6

8

August

オープンキャンパス開催

8 / 2

国際保健・看護Ⅱ ベトナム研修

8 / 9 ~ 8 / 16
P7

子ども大学「これでみんなもニース看護師」

8 / 19

9

September



公開講座「かがやけシニア」

9 / 2

看技トライアル

9 / 8



避難消火訓練

9 / 30



入学式の様子



第1回グローバル・ワークショップ集合写真



宗像高校文化祭の様子



2年生科目「疾病と治療Ⅲ」



1年生科目「赤十字救護・援助法」



タイ赤十字大学留学生 病院見学の様子



公開講座の様子



タイ赤十字大学留学生 老人ホーム見学の様子



オープンキャンパスの様子



子ども大学集合写真



避難消火訓練の様子

看技トライアル
(課題:認知症をもつ人への対応)の様子

2025 年度に着任した教員 3 名の教員をご紹介します！



ヘルスプロモーション
松尾 和枝 先生

松尾先生の略歴

- ・北九州市戸畑区出身、北九州市で保健師を経験
- ・1984 年 産業医科大学医療技術短期大学・産業保健学部
- ・2002 年 日本赤十字九州国際看護大学
- ・2009 年 福岡女学院看護大学
- ・2025 年 本学へ入職

◎ 先生のご専門分野について教えてください！

専門は公衆衛生看護学で、ヘルスプロモーションに取り組んでいます。赤ちゃんから高齢者まで、すべての住民の健康維持・増進を目指し、個人・家族・集団・地域単位で予防活動をサポートしています。生活習慣病の予防や成長期に最大骨量を確保するための健康学習支援など、病気の発症予防のための主体的な健康づくりと地域づくりを長年の研究テーマとし、健康長寿と QOL 向上を支える街づくりを目指して活動しています。

◎ 本学へ来られて、大学・学生の印象はどのようなものですか。

本学で働くのは 2 回目です。以前一緒に働いていた教職員の方もおられ、16 年間のブランクを感じさせない温かい雰囲気です。学生さんの実習や大学での姿からも“日赤愛”が伝わり、人と真摯に向き合い、助け合おうとする姿勢がとても素敵な大学だと感じています。

◎ これからトライしてみたいことはありますか。

本学で最初に勤務した際に学んだのは、宗像市の住民力のすばらしさでした。また、JICA のアテンド等を通して、日本の保健医療の歴史や経験を深く理解し、世界の方々と共有できる力の必要性和、交流の有効性を痛感しました。今までの経験をベースに、国内外の方々との交流を通じて、互いの潜在力を引き出し合い、双方の地域力の向上につなげる活動を学生とともに推進していきたいと考えています。そのためのファシリテーション力も磨いていきたいです。



老年看護学
町島 希美絵 先生

町島先生の略歴

- ・北九州市八幡東区出身
- ・北九州市の看護専門学校を卒業後、福岡県内や福岡市内の総合病院に勤務
- ・2017 年 福岡市内の看護大学に開学と同時に着任
- ・2018 年 大学院博士後期課程修了 博士の学位取得
- ・2025 年 本学へ入職

◎ 先生のご専門分野について教えてください！

私の専門分野は老年看護学です。高齢者の心身の健康維持や家族を含めた生活の質の向上を目指した教育や研究に取り組んでいます。認知症やフレイル予防をテーマに、看護職のみならず、多職種や他分野の研究者と連携し、ICT を活用した支援方法を提案しています。高齢者が自立した生活を続けられるよう、理論と実践をつなぐ看護の探求を目指しています。

◎ 教員、または看護職を目指されたきっかけは何でしょうか。

大学院博士後期課程に在籍中、前任校が看護大学設置準備室を立ち上げたときに、声をかけられ、開学準備に携わったことが大学教員としての第一歩でした。地域に根差した看護職を育成するため、カリキュラムを一から構築する経験は、とても新鮮で充実したものでした。開学後は、学生の成長を間近で感じ、教育の奥深さとやりがいを実感しました。学生一人ひとりが持つ魅力を引き出し、看護職として社会に羽ばたけるように、教育者の立場から丁寧に関わっていききたいと考えています。

◎ これからトライしてみたいことはありますか。

しばらく遠ざかっていた運動を再開したいと思います。ジムなどに通いながら、フレイル・サルコペニア予防を意識した基礎体力作りに取り組んでいきたいと考えています。また、以前から関心のあった保護猫活動にも携わりたいと思っています。猫たちのお世話を通して、心の癒しを得るとともに、ボランティアの方々との交流のきっかけにもなれば嬉しいです。



基礎・専門基礎
ガックラ・マヘンダー・クマール 先生

ガックラ先生の略歴

Born in India to Telugu parents, I pursued my entire education in India with early aspirations of becoming an English teacher—a profession I viewed as both respectable and meaningful. I earned my Masters and Ph.D. in linguistics and English Language Teaching, establishing a strong foundation in my chosen field. In 2007, I embarked on a transformative journey to Japan as a JET Program Assistant Language Teacher. Over nearly two decades, I have built a diverse career spanning education, manufacturing, animation, and IT industries across Kitakyushu, Hyogo, Ehime, and Tokyo. Now residing in Okagaki with my wife and two children, I continue to pursue my passion for education, dedicated to building students' confidence in English and communication skills. My commitment extends beyond the classroom, fostering environments where learners feel empowered to express themselves. When not teaching, I find joy in nature walks, seaside visits, local festivals, cooking, music, and sports—embracing both Japanese culture and my Indian heritage in my daily life.

◎ 先生のご専門分野について教えてください！

My research examines how students develop their identities as English learners in today's globalized world. Further, on intercultural communication, focusing on how people from different cultures communicate effectively and what challenges they face. In teaching, I help students improve their communication and presentation skills. I use practical methods that expose students to various English use situations. My classes encourage students to reflect on their own cultural backgrounds while learning to communicate with people from different cultures. I believe in creating learning experiences that prepare students for real-world international communication situations.

◎ 小さいころの夢はなんですか。

As a child, I wanted to become an Air Force pilot and a professional basketball player. I used to imagine flying planes and making incredible shots on the basketball court. These dreams showed my early desire to explore beyond my immediate surroundings. Looking back, both dreams reflected my curiosity about what existed beyond my everyday life. I was drawn to careers that would take me to new places and experiences. These childhood ambitions revealed my natural inclination to seek adventure and discover things beyond my familiar environment.

◎ 学生に期待することは何でしょうか。

I wish students of this generation would resist the pull of instant gratification and embrace the long journey toward meaningful goals. Big dreams require continuous pursuit and perseverance, not quick fixes or shortcuts. I encourage students to invest more time in genuine teamwork. Working collaboratively not only produces better results but also helps individuals discover their best qualities. Through team experiences, students learn patience, develop empathy, and build the persistence needed for significant accomplishments.

国際看護実践研究センター

第1回 グローバル・ワークショップを開催しました！

本学では、学生が国際的に活躍するために必要な基礎的な力を身につけることができるように、国際シンポジウム・国際フォーラムを開催しています。今回から学生がグローバルな視点でもっと自由に学ぶことを目指して、国際シンポジウム・国際フォーラムを合体し、グローバル・ワークショップとして開催しました。

初めてのグローバル・ワークショップは、医療救護活動をテーマとしました。災害が起こった時には、様々な国の方々、様々な宗教文化を持つ方々と協力して危機を乗り越える必要があります。そのため、今回、宗像での災害を想定し、福岡赤十字病院、日本赤十字社福岡県支部、やすらぎの郷のみなさまの協力を得て、赤十字の医療救護についての講演や救護所設営などを行いました。また、日本アジア国際教育センターのネパールからの留学生のみなさんと一緒に協力してエアテント設営、炊き出しなども行いました。

本学では赤十字について学ぶ機会がありますが、その実際の活動の一部を体験することは学生にとって大きな刺激になったようでした。また、救護所設置や炊き出しを留学生のみなさんと協力して実施することは、言葉や宗教文化の違いを実感し、協力して活動するために自分に必要な力を考える機会にもなっていました。今後も学生と一緒に様々なテーマでグローバル・ワークショップを開催したいと思います。

< 本学学生感想：救護所設営企画 >

福岡赤十字病院 救急科副部長 荒武 憲司先生による講演では、国内災害における日本赤十字社の医療救護活動について率直なお話を伺うことができました。現場における理想と現実、そこに伴う葛藤や工夫について知り、支援をより現実的な視点から考える貴重な機会となりました。また、留学生の方々と英語や日本語を交えてコミュニケーションを取りながら救護所を設置する活動を通して、言語や文化の壁を越えて協力することの難しさを実感しました。

< 本学学生感想：炊き出し企画 >

KDNSサークル(サークル紹介p10)として炊き出し企画を実施しました。炊飯器の不具合で、お米が炊けていないというアクシデントがありましたが、鍋で炊く方法に切り替え、提供時間までに間に合わせることができました。留学生の方々と協力して準備を進める中で、言葉の壁がありましたが、ジェスチャーや翻訳機器を活用し、ネパールと日本のカレーの違いや挨拶の文化について知ることができ、貴重な交流となりました。また、出来上がったカレーを配る際、「ありがとう」「美味しそう」などといった声をかけてもらったことで、とても嬉しく温かな気持ちになりました。この経験を通じて、相手を思いやる言動が人の心を満たすことを実感しました。災害現場のような混乱した状況でも、冷静に思いやりを持って行動することの重要性を学びました。

< 日本アジア国際教育センター関係者からの感想 >

今回のように一緒に考え体験する企画は、ネパールの学生にとっても刺激になりました。学生たちは、日本語や英語、ネパール語などで交流できていて、今後もこのような機会が大事だと思いました。次は、日本アジア国際教育センターにも遊びに来てください！ネパールでは医療の問題が多くあります。日本赤十字九州国際看護大学の学生のみなさんとネパールの医療問題についても一緒に考えるような企画もできそうですね！



荒武先生による講演の様子



エアテントを使った救護所設営の様子



ネパール人留学生の皆さんと一緒にカレーを作っている様子

日本赤十字看護学会

Japanese Red Cross Society of Nursing Science

学生ボランティアに参加しました！



会期：2025年7月19日（土）・20日（日） 会場：アクロス福岡

日本赤十字看護学会に学生ボランティアとして参加し、貴重な経験をさせていただきました。私たちは学会の運営を支える一員として、会場の総合案内を担当しました。講演を快適に聴いていただけよう、学生同士で随時話し合いを重ね、講演が円滑に進行するよう努めました。案内業務を通じて、研究発表や講演の場面に触れることができ、看護の専門性を高めようとする多くの看護職の姿勢に刺激を受けました。講演では赤十字の理念に触れられる場面が多くあり、赤十字の理念が看護の根本にあるということを改めて実感しました。日本赤十字社の病院に勤める、勤めないに関わらず、大学4年間で学んだ赤十字の理念を大切に看護を行いたいと感じました。また、学会で臨床での学びを共有し互いの看護観を深め合っている看護職の姿を実際に見て、将来私たちも看護師として専門性を磨き、学び続ける姿を大切にしたいと強く感じました。

学部4年生 宮副 愛夕 山田 真純

赤十字看護学会

全国赤十字の看護学教育の中心的役割を担うものとして、赤十字の看護の発展に向け、学術的な組織基盤として平成12年に設立されました。

地域連携教育センター

宗像高校文化祭「鳳雛祭」に参加しました！

5月31日（土）、福岡県立宗像高等学校の文化祭「鳳雛祭」において、地域連携企画としてブースを出展しました。「避難行動要支援者体験を通して、災害時の避難を考えよう」というテーマで、高齢者疑似体験、妊婦体験、赤ちゃん人形を使った育児体験に加え、避難所を想定したテントや簡易ベッドに寝ていただく体験を実施しました。

当日は多くの来場者が途切れることなく訪れ、特に高齢者体験ではゴーグルを使った日常動作の疑似体験が好評でした。学生が考えた防災リュックの紹介や「認知症高齢者捜してメール」の登録説明も行い、災害への備えについて関心を深めていただきました。

また、ハートラちゃんとの写真撮影も人気を集め、小さな子どもから高校生まで楽しみながら防災を学ぶ機会となりました。学生ボランティアも積極的に来場者と交流し、学びと成長の機会となりました。

みんなで笑って心も体も元気になりました！

7月28日（月）、UR都市機構との共催で、宗像市内の日の里団地集会所にて公開講座を開催しました。講師は本学・地域在宅看護学の西村准教授で「笑いヨガ」「笑いの健康効果」について、楽しくわかりやすくお話ししました。

講座では、「作り笑いでも心と体に良い影響があること」や、「笑いヨガが表情筋や胸筋を鍛え、深い呼吸を促す健康法であること」などが紹介されました。実際に「アロハ笑い」「ナマステ笑い」など、いろいろな笑い方を体験しながら、会場は終始にこやかで温かな雰囲気に包まれていました。

参加者も学生ボランティアもスタッフも、みんなで笑ってリフレッシュ。「笑うって気持ちいい！」と、笑顔あふれるひとときとなりました。

むなかた子ども大学「little看護師体験」でキラキラ笑顔！

宗像市教育委員会の取り組み「むなかた子ども大学」の一環として、「これでみんなもlittle看護師」が8月19日（火）に本学の看護実習室で開催されました。当日は、小学1～3年生の子どもたち41名が参加し、憧れのナース服に身を包んで体験スタート！赤ちゃんのモデル人形に聴診器を当てて心音を聴いたりおむつ交換をしたりと、本物さながらの演習に臨みました。子どもたちは興味津々で、ボランティアの看護学生に教わりながら、楽しそうに何度も練習を繰り返していました。目をキラキラ輝かせ赤ちゃんにやさしく触れる姿に、保護者の皆さんも温かいまなざしを向けていました。「楽しかった！」「将来は看護師になりたい！」といった声も多く聞かれ、笑顔あふれる一日となりました。さらに、ハートランドの森からやってきたハートラちゃんも登場し、会場を大いに盛り上げてくれました。



赤十字活動Ⅱ

スイスのラ・ソース大学と
インドネシアのアイランガ大学の
学生と共に3週間災害管理について学びました。

1週目は学内での災害に関する基礎学習と地域を理解するための活動を行いました。災害に関する講義や一次救命処置の演習、高齢者体験を通して、災害時に直面する課題や赤十字の役割について理解を深めた後、ハザードマップを用いた大学周辺の地区踏査を行い災害のリスクを確認しました。また、各国の災害対策を比較し、災害への備えに必要な知識や活動について話し合いました。

2週目は実践的な活動と地域コミュニティとの交流を行いました。福岡市防災センターでは、消火活動や震度7の揺れを体験し、災害への備えの重要性を再認識しました。宗像市の離島である大島では、災害に備えるというテーマで、地域の高齢者や小学生とともに、段ボールトイレの作成、防災

リュックの準備、簡単な体操を実施しました。これらの活動から、日ごろから災害への備えをしておくこと、地域において協力、信頼、相互扶助関係を構築しておくことの重要性を改めて考える機会になりました。

3週目は、医療施設における危機管理と対応についての学習と成果発表を行いました。福岡赤十字病院を訪問し、赤十字病院の使命と役割、看護部の活動(災害看護を含む)、国内外の救護活動について学びました。産婦人科病棟では、外国人の妊産婦さんに向けた多言語の資料、火災発生時の避難方法を学びました。最終日には、3週間の学習成果を発表しました。国や文化、言語の違いを乗り越えて協力し、災害時にはコミュニケーション・協力・協働が重要であると改めて実感しました。



浴衣を着て夏祭りを体験



福岡赤十字病院訪問



大島コミュニティセンターで
段ボールトイレの作成



福岡市防災センターで
消火活動を体験

8月9日から16日、国際看護コースの6名は、国際保健・看護Ⅱの科目でベトナムへ研修に行きました。今回の研修テーマは「救急法-BLS(一次救命処置)と包帯法について学ぶ」です。

ベトナムでは交通事故が多いにも関わらずBLSを学ぶ機会がないこと、救急車が有料であること等から救命率は低い傾向にあります。そこで、国際交流協定校であるナムディン看護大学の学生と共にBLSと包帯法を学習し、他の学生への研修を実施することになりました。ナムディン看護大学にはAEDがないため、日本赤十字社福岡県支部からトレーニング用バイリンガルのAEDをお借りし持参しました。ベトナムの学生にとっては初めて見て触るAEDであり、体験でした。事前学習をふまえ協働で実施した研修会は、学生にも先方の先生方にも好評で、学びの多いものとなりました。

交流会では、日本の浴衣やベトナムのアオザイの衣装を交換し、浴衣を心待ちにしていた学生たちの笑顔がとても印象的でした。書道や折り紙を使った風鈴づくりなども体験してもらい楽しむことができました。一次医療施設である地域のヘルスセンターにも訪問し、住民の健康管理について学びました。ここでは「高齢者の生活背景と健康課題」について学習し、農作業等による腰・肩・足の慢性的な痛みが多いことを考慮し、ストレッチを取り入れた体操を実施しました。地域の高齢者10名が、楽しみながら参加してくださいました。

研修を通し、ベトナムの学生と文化や考え方の違い、思っていることをうまく伝えられないことから意見がぶつかることもありましたが、意見を出し話し合うことで相手を知り、多様な考えを尊重しながら協働することの大切さを学ぶことができました。

国際保健看護Ⅱ



AEDを使ったBLSの研修



ヘルスセンターでの体操の様子



ベトナムの伝統衣装 アオザイを着てみました



#01

上田奨学会献花式を行いました

上田米蔵翁には、1958(昭和33)年、本学の前身である福岡赤十字高等看護学院(後の福岡赤十字看護専門学校)の創設時に多額のご芳志を賜りました。1968(昭和43)年には上田奨学金制度が発足し、福岡の赤十字看護師養成にご貢献いただきました。現在では、本学大学院生を対象に、奨学金が貸与されています。

本学では毎年、米蔵翁のご偉功に敬意を表し、献花式を行っています。今年は7月14日(月)、米蔵翁のご令孫である上田奨学会理事長 上田康藏氏と、同会常任理事を務める本学の池松裕子学長がゲート棟1階エントランスで献花を行いました。



#02

大学院授業料免除制度に 選出いただいたことへの感謝

このたび、大学院授業料免除制度の対象に選出いただき、誠にありがとうございます。身に余る光栄に、喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。

昨年度は大学院生活のスタートとして、何もかもが手探りで思うようにいかないことも多くありましたが、自分にできることを一つひとつ丁寧に組み立ててまいりました。その積み重ねをこのような形で評価していただけたことを、大変光栄に思います。

大学院では、多様な価値観に触れながら学びを深めるなかで、専門職としての知識はもちろん、人としての視野も広がっていると日々実感しています。ご指導くださる先生方、支えてくれる家族、共に学ぶ同期や先輩方、そして学びを支えてくださる大学関係者の皆様に、改めて心より感謝申し上げます。

今後は、看護職としての専門性を高めるとともに、人としての感性も磨きながら、誠実に学び続けてまいります。いただいた栄誉を励みに、慢心することなく、一步一步着実に歩んでいく所存です。

本当にありがとうございました。

修士課程 助産コース 廣瀬 美海

#03

修士課程院生交流会に参加しました

今年から働きながら大学院で学ぶという大変忙しい毎日を過ごしています。20年ぶりの学生生活で感じたことは、覚えて身につけるというより考えて発想することが多いということです。苦しいと感じることもありますが、看護師として働き得られた経験が学びを深めていると感じ、年齢や経歴の違う同期の学生らと協議することは新しい視点を知るという点で貴重な時間です。私は現在看護管理者です。自分の立場をふり返り「理論を知り、即実践する」が可能な今の環境は興味深いと感じます。そして修士論文



作成に着手する今、思うように進まない事態を心配しましたが、8月8日に開催された院生交流会に参加し、諸先輩方の話を伺うことで、少々気持ちが落ち着きました。地道にやるしかないと思えたのです。以前ある先生が「苦しい辛い状況は変えられないから、楽しむしかない」とおっしゃいました。まだ楽しむ自分に出会えていませんが、そのような日がくることを願うばかりです。

修士課程 看護・研究者コース 高橋 美弥子

#04

励まし合える仲間の存在に 気づいた博士課程院生交流会

8月25日に博士課程の院生交流会にオンラインで参加しました。福岡県内外から院生が一堂に会し、それぞれの研究の進捗状況や取り組みの工夫を共有し、課題をどう乗り越えていくかについて意見を交わしました。博士課程の学びは知的な喜びがある一方で、思うように研究が進まない苦しさや、データに黙々と向き合う中でふと孤独を感じることも少なくありません。講義やゼミはオンライン中心で行われるため、院生同士が顔を合わせ、励まし合う場も限られていたように思います。交流会では、臨床と研究を両立させる大変さやスランプに陥ったときの葛藤、研究対象者から励ましの言葉をいただいたことなど、それぞれの想いや経験が語られました。研究を進めるうえでの難しさも共有され、思わず頷きながら耳を傾ける時間となりました。同じ道を歩む仲間だからこそ共感や励ましの言葉は力となり、研究の支えとなる仲間の存在の大きさを実感しました。これから研究を進めていくうえでの活力になったと感じています。また、先生方からも貴重なご経験やアドバイスを伺うことができ、視野を広げる機会となりました。このような交流の場を設けてくださった先生方に心より感謝いたします。交流会で得た多くの気づきと仲間からのエールを胸に、明日からの研究を一步一步進めていきたいと思っています。

博士課程 菊池 さよ

#05

大学院内部進学試験を受験して 助産コースで学んでいます

私は元々、助産師という職業に関心があつたのですが、性教育について発信している助産師の動画を見たことがきっかけとなり、助産の勉強をしながら性教育の研究ができる本学の助産コースを目指し、大学院内部進学試験を受験しました。

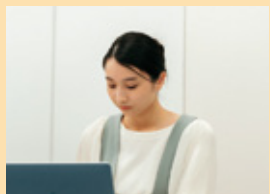
大学院内部進学試験は学部の成績も評価対象になるので、学部の勉強のモチベーションが上がりました。また、大学院内部進学は5月に合格発表のため、就活をしている同級生と同時期に進路が決まったのが嬉しかったです。

今、院生になって半年経ちました。大学院では臨床経験がある方々とともに学び、ディスカッションする機会が多いため、日々刺激を受けています。課題は大変ですが、同期や先輩方に支えられて乗り越えることができています。

修士課程 助産コース 草村 菜理



E-POSTER



開学以来の 化粧直し

本学校舎がきれいになりました。

2024年6月に着工した本学校舎の外壁及び屋上防水改修工事が本年7月に無事完了しました。開学から25年を経て、汚れや劣化が目立つようになっていた本学の建屋は、工事関係者の皆様、地域の皆様のご協力を得て、とても素敵な外観に生まれ変わりました。

Before



大学の玄関口であるゲート棟は、コンクリート壁の汚れが目立っていましたが、塗装されて清潔感のある明るいゲートになりました。

After



After



キャンパスプラザの学生棟外壁部は明るいベージュ色で塗装され、開放感のある素敵な中庭に変身しました。

Before



Before



外壁修繕工事が完了し、綺麗になったオーヴァルホール。地面の煉瓦ブロックは高圧洗浄により汚れがとれて見違えるようになりました。

After



クラブ & サークル 紹介

Club & Circle Introduction

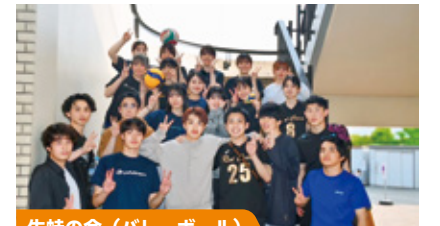
学生が自分の興味・関心に応じて、スポーツ系・表現系・文化系の活動に取り組んでいます。看護学生らしく、普段の授業・実習と両立しながら、楽しく充実した学生生活を過ごしています。

大学公認の14の学生団体を紹介します



弓道部

広い弓道場でのびのびと弓道を楽しんでいます。自分のペースで好きな曜日に活動ができるため、学業との両立も可能です。



牛蛙の会（バレーボール）

総員約60名！週に1回以上、男女や学年の枠を超えて楽しく活動しています。初心者も大歓迎です。一緒にバレーしましょう。



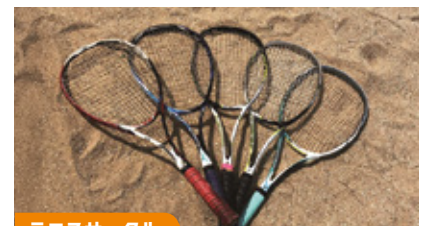
バドミントンサークル

初心者から経験者までみんなで楽しくをモットーに、週1回火曜日に活動中。学年や男女の枠を超えて一緒に楽しみましょう。



DnD（ダンスサークル）

DnDは、近隣にある福岡教育大学のダンスサークル（：KISO）の皆さんに混ざって活動しています！一緒にダンスを踊りませんか？



テニスサークル

空きコマや放課後を利用して活動中。硬式・軟式どちらでも！道具の貸し出しもできるため、経験を問わずに気軽に始められます！



雷門FC（フットサル）

月2、3回体育館や近くのフットサル場を借りて活動しています！男女問わず初心者も楽しくをモットーに活動中。誰でも参加大歓迎です！



Red Cross（バスケットサークル）

バスケットサークルです！週1回、日々のリフレッシュにバスケットボールを楽しんでいます。興味がある方はぜひ体育館へ！



吹奏楽

450名を収容できるオーヴァルホールで練習しています。大学祭・入学式・卒業式での演奏を目標に活動中。初心者もどうぞ。



学生奉仕団

福岡学生献血推進協議会に所属し、博多どんたくなどのイベントに参加しています。献血者数増加のための活動をしています。



Brücke

グローバルとローカルを組み合わせたボランティアサークルです！個人・グループでも活動し、YouTubeやInstagramで発信中。



KDNS

このサークルは、災害時に学生でも自主的に動くことができるように災害・防災に関する知識を平時より学ぶことを目的としています。



Global Unity

国際ボランティアサークルです！「アジア太平洋子ども会議・イン福岡」、「ペットボトルキャップをワクチンにプロジェクト」等で活躍中。



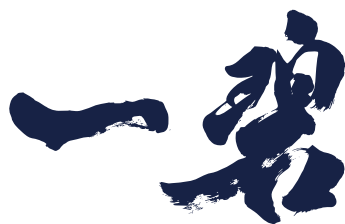
Sing

バンドサークルです！新入生歓迎会や大学祭でライブ活動します。9割が初心者！楽しく練習中。音楽を楽しみたい方は是非！



ゆいまーのわ

私たちは、沖縄伝統芸能であるエイサーを踊っています！イベント等でエイサーを披露しています！初心者でも楽しめます★



大学を囲む、宗像の海・山・空をイメージし、水と空が一続きになって一様に青々としていることを表す四字熟語「水天一碧」から名付けられました。「碧」は、同窓会「遥碧会」の字のひとつでもあり、本紙を通じて、学生・保護者・OG・OBの皆様と大学とが一続きにつながって欲しいとの願いが込められています。

書：吉田 歩さん（2014年度 看護学部卒業生）



公式 SNS のご紹介

公式 SNS をフォローして、
「日本赤十字九州国際看護大学」を知ろう！



YouTube



https://www.youtube.com/@jrckicn_youtube

Instagram



大学公式Instagramです。
@jrckiyushu_college

一碧



本広報誌「一碧」は
Web版でも公開しています。

日本赤十字九州国際看護大学のホームページでは、最新の発信を更新しています。

[<https://www.jrckicn.ac.jp/>]

日本赤十字九州国際看護大学



∞ ———— 寄付のお願い ———— ∞

本学では、個人・法人の方からのご寄付を募集しています。
寄付金には、一定の税制上の優遇措置が受けられます。
詳しくは、本学ホームページでご確認をお願いいたします。



日本赤十字九州国際看護大学

Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing

発行: 日本赤十字九州国際看護大学

〒811-4157 福岡県宗像市アスティ1丁目1番地
Tel.0940-35-7001 Fax.0940-35-7021